

政権交代はしたけれど

- ・政権交代とは

何のための、誰のための政権交代だったのか

政権交代によって何が変わりつつあるのか

- ・マニフェストについて

本来のマニフェストの意義

- ・新内閣について

「平成の開国」「最小不幸社会」「不条理を正す」

- ・政党政治の危機

ローカル政党の跋扈と政治家個人の考え方（理念、資質）

- ・政治に対する信頼（信無くば立たず）

政治と金、何が問題か

- ・ねじれ国会について

各法案審議から感じた事

- ・年金問題から見る今後の政治課題と日本社会のあるべき姿

義務と責任と権利、社会の連帶、社会保障制度（国家）の理念

世界から信頼され尊敬される国柄の構築

社会が衰退して行く時の現象

- ・ 国民の心にエゴイズムが生じ大きくなる
- ・ 国民が自立心を失う
- ・ 指導者が大衆迎合を始める
- ・ 若者の指導を怠る様になる
- ・ 幸せを金や物の量で量る様になる

アーノルド・J・トインビー

お金の使い方について

- ・ 自分の金を自分の為に使う人は節約と効率の双方を心掛ける
- ・ 自分の金を他人に使う時は効率に关心が薄くなる
- ・ 他人の金を自分の為に使う際は余り節約しない
- ・ 他人の金を他人の為に使う人は節約も効率も考えない

ミルトン・フリードマン

この様な観点から受益と負担においては、自立心を養い自主性を尊重する事が重要である。

論語

子曰、爲政以德、譬如北辰居其所、而衆星共之、

子の曰わく、政を為すに徳を以てすれば、譬（たと）えば北辰の其の所に居て衆星のこれに共（むか）うがごとし。

「政治をするに道徳によっていけば、ちょうど北極星が自分の場所にいて、多くの星がその方向に向かって挨拶しているようになるものだ【人心がすっかり為政者に帰服する】」
為政第二 (一)

子曰、道之以政、齊之以刑、民免而無恥、道之以德、齊之以禮、有恥且格、

子の曰わく、これを道びくに政を以てし、これを斉（ととの）うるに刑を以てすれば、民免（まぬが）れて恥ずることなし。これを道びくに徳を以てし、これを斉うるに礼を以てすれば、恥ありて且（か）つ格（ただ）し。

「[法制禁令など小手先の] 政治で導き、刑罰で統制していくなら、人民は法の網をすりぬけて恥ずかしいとも思わないが、道徳で導き、礼で統制していくなら、道徳的な羞恥心を持ってその上に正しくなる」

為政第二 (二)

子貢問政、子曰、足食足兵、民信之矣、子貢曰、必不得已而去、於斯三者、何先、曰去兵、曰必不得已而去、於斯二者、何先、曰去食、自古皆有死、民無信不立。

子貢、政を問う。子の曰わく、食を足し兵を足し、民をしてこれを信ぜしむ。子貢が曰わく、必ず已（や）むを得ずして去らば、斯の三者に於て何（いはず）れをか先きにせん。曰わく、兵を去らん。曰わく、必ず已むを得ずして去らば、斯の二者に於て何ぞれをか先きにせん。曰わく、食を去らん。古（いにしえ）より皆な死あり、民は信なくんば立たず。

「子貢が政治のことをお訊ねした。先生は言われた、「食料を十分にし軍備を十分にして、人民には信頼を持たせることだ。」子貢が「どうしてもやむを得ずに捨てるなら、この三つの内でどれを先にしますか。」と言うと、先生は「軍備を捨てる」と言われた。「どうしてもやむを得ずに捨てるなら、あと二つの中でどれを先にしますか。」と言うと、「食料を捨てる【食料がなければ人は死ぬが、】昔から誰にも死は在る。人民は信頼がなければ安定しない。」と言われた。」

顏淵第十二 (七)

子曰、孰謂微生高直、或乞醯焉、乞諸其鄰而与之。

子曰く、孰（たれ）か微生高を直なりと謂う、或るひと醯（す）を乞う、諸（これ）をその鄰（となり）に乞いてこれに与う。

「先生が言われた、誰が微生高を正直だなどと言ったのだ。ある人が微生高に酢をもらいに行ったら、彼は隣家から酢を貰ってその人に与えたではないか。」

公冶長第五 (二四)

ものの見方

- (一)、 目先だけを見るものと、長い目で見るもの。
- (二)、 一面的見るものと、多面的・全面的に見るもの。
- (三)、 枝葉末節を見るものと、根本を見るもの。

大切な眼目として

- 1、 どちらが利益かという見方（功利的な見方）
- 2、 どちらが正しいかという見方（道義的な味方）

清を以てする

民を治めて平らかならしめ、平を致すに清を以てすれば、民その所を得て、天下寧し。 (兵書「三略」)

正直者が馬鹿を見る、ではいけない。ごね得ではいけない。

物質的格差を少なくするだけではいけない。理性的に精神的に公平にしなければならない。

指導的地位にあり、権力の座にある者が、つとめて己を清くすることである。事を清くすることである。

安岡 正篤 語録集（憂楽志、醒睡記）より

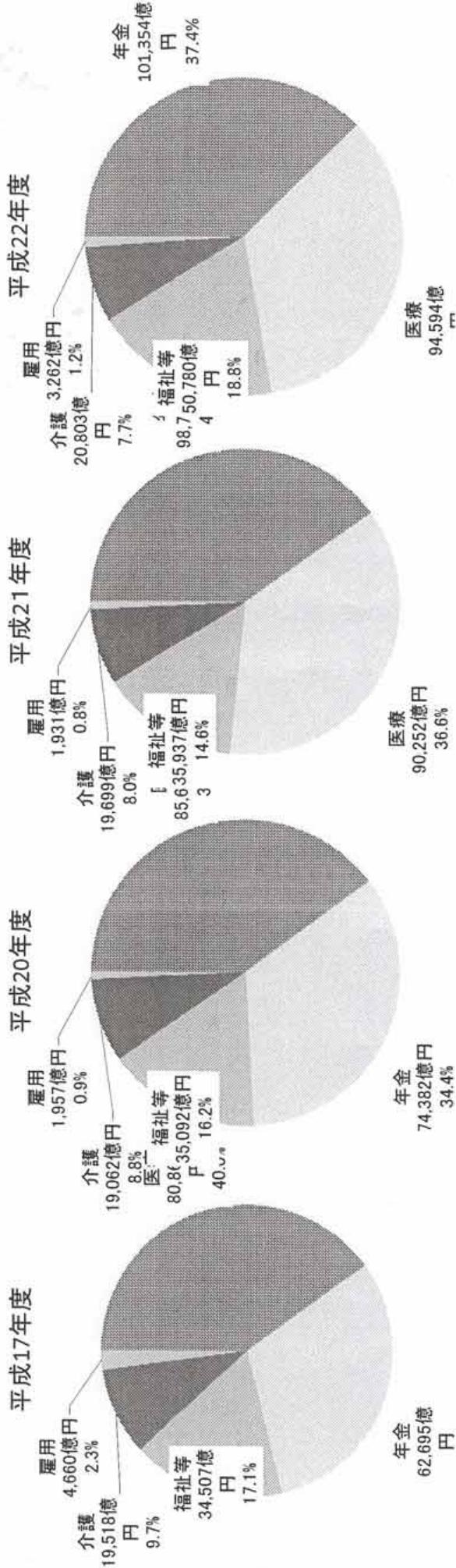
平成15年度以降の一般会計予算と公債との関係

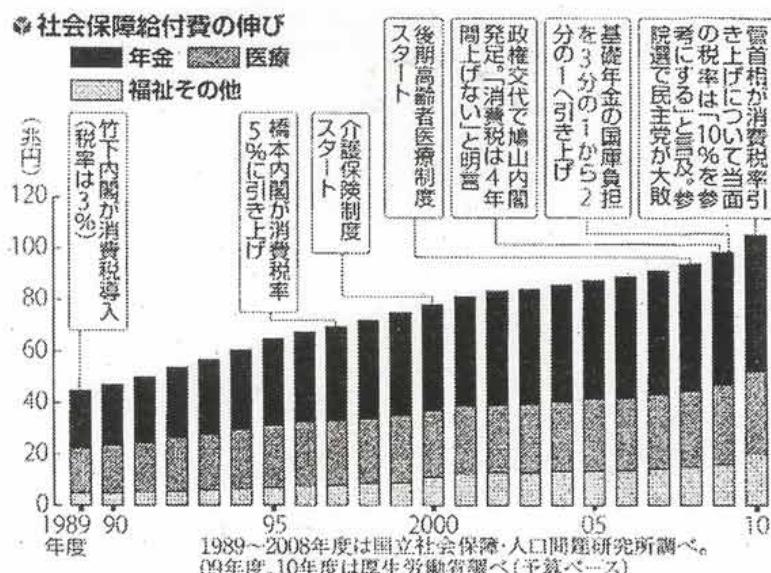
年度	当初予算	当初公債発行額	公債依存度	うち特例公債	歳出における国債費	公債残高(うち特例公債)	対GDP比	国・地方の長期債務残高
平成15年度	81兆7891億円	36兆4450億円	44.60%	30兆0250億円	16兆7981億円	457兆円 (231兆円)	92.60%	682兆円程度(138%)
平成16年度	82兆1109億円	36兆5900億円	44.60%	30兆0900億円	17兆5685億円	499兆円 (258兆円)	100.00%	725兆円程度(142%)
平成17年度	82兆1829億円	34兆3900億円	41.80%	28兆2100億円	18兆4422億円	527兆円 (280兆円)	104.80%	745兆円程度(145%)
平成18年度	79兆6860億円	29兆9730億円	37.60%	24兆4890億円	18兆7616億円	532兆円 (288兆円)	104.10%	750兆円程度(147%)
平成19年度	82兆9088億円	25兆4320億円	30.70%	20兆2010億円	20兆9988億円	541兆円 (305兆円)	104.80%	760兆円程度(147%)
平成20年度	83兆0613億円	25兆3480億円	30.50%	20兆1360億円	20兆1632億円	546兆円 (321兆円)	110.50%	767兆円程度(148%)
平成21年度	88兆5480億円	33兆2940億円	37.60%	25兆7150億円	20兆2437億円	594兆円 (356兆円)	124.80%	820兆円程度(172%)
平成22年度	92兆2992億円	44兆3030億円	48.00%	37兆9500億円	20兆6491億円	637兆円 (392兆円)	134.00%	862兆円程度(181%)
平成23年度	92兆4116億円	44兆2980億円	47.90%	38兆2080億円	21兆5491億円	各年度末22年度は見込み		

社会保障関係費の内訳

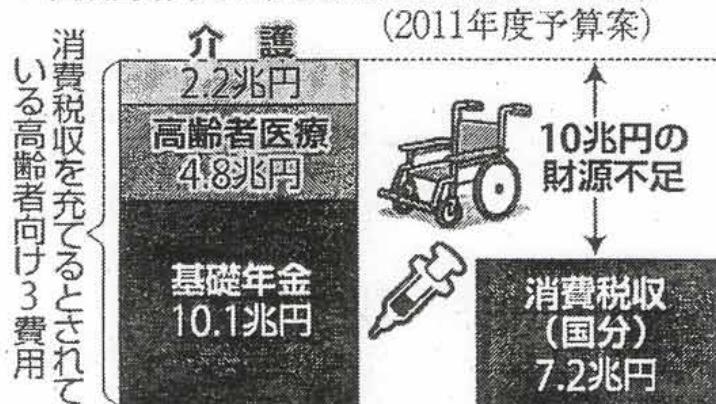
(単位：億円)

	平成17年度 予算額	平成18年度 予算額	平成19年度 予算額	平成20年度 予算額	平成21年度 予算額	平成22年度 予算額
社会保障関係費	202,240	204,187	209,659	216,136	246,522	270,793
年 金	62,695	66,578	70,305	74,382	98,702	101,354
医 療	80,862	81,586	84,285	85,644	90,252	94,594
介 護	19,518	19,143	19,485	19,062	19,699	20,803
福 祉 等	34,507	32,556	33,371	35,092	35,937	50,780
雇 用	4,660	4,325	2,213	1,957	1,931	3,262

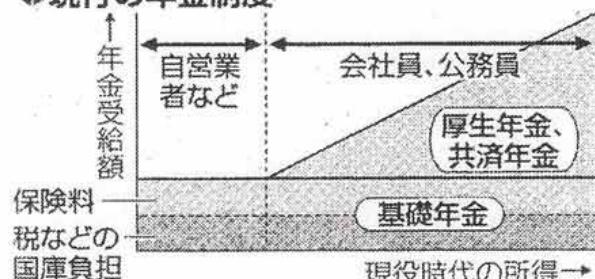




●高齢者向け3費用と消費税収の差額



●現行の年金制度



※自民党、公明党の改革案は、現行制度をベースに、無年金・低年金対策を強化

●民主党の改革案のイメージ

